

編集後記

『摂南大学教育学研究』第 15 号ができあがりました。ご寄稿いただいた先生方、事務や編集・印刷・製本に関わられたすべてのみなさまに感謝申し上げます。

本誌も今号で 15 回目の刊行となり、新たな飛躍の区切りとしなければという思いを強くします。また、教職課程は来年度の新入生から新課程に切り替わることになります。その意味でも、ひとつの節目の時期を迎えているかと考えます。

さて、今号には 3 本の研究論文が掲載されています。

本学教職支援センター吉田佐治子先生はじめ 4 名の先生方からなるチームによる「知的職業人のアセスメント」についての論考は、「人間力」についてのアセスメント作成のために、調査と検証を積み重ね、練り上げられたものです。

大卒就職内定率が高い数字を維持し、「売り手市場」と言われる昨今にあっても、2021 年度からの「就活ルール」の廃止、インターシップの拡大等による就活の早期化・長期化、若年雇用の非正規化の進行や 3 年以内の離職率の高さの問題等、大学生の就職を取り巻く環境は日々変化し、また厳しさを増している中で、「アセスメント」の今後の活用が期待されます。

森均先生の「近畿高等学校統一応募用紙」（紹介書・履歴書）の改定に関する論考は、ほぼ 50 年間にわたる用紙の様式の変遷についての詳細な研究であり、本誌第 11 号所収の「統一応募用紙」の制定に関する研究も合わせて、高校現場での就職指導に携わられた豊富な経験をお持ちの森先生ならではのものです。また、掲載された別紙資料は、過去の様式が散逸している状況にあって、極めて貴重な史料価値をもっていると思われます。

林論文は、基礎免許課程においても、「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に関する科目が必修となったことを機に、通常学級、あるいは支援学級での障害のある子どもの教育に資するよう、79 年の養護学校義務化を挟んだ時期に行われた議論をあらためて整理し、再解釈しようとしたものです。

今後、『摂南大学教育学研究』がいつそう充実したものとなるよう、多方面からのご寄稿をお待ち申し上げるとともに、関係のみなさま方からのさらなるご指導ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

編集委員・幹事 林 茂樹